



地域政党

兵庫むすびの党

むすび新聞



第5号

発行

令和6年8月1日

灘民商事件の裁判手続きが進んでいます

灘民商 の非合法活動をあばき、**日本共産党** を撲滅します！

1 灘民商事件の概要

“**県会議員候補として共産党に出向したが、選挙活動を怠った**” ——こんな前代未聞の解雇理由で職場から解雇されたのは、灘民主商工会（灘民商）の事務局員として働いてきた東郷ゆう子さんです。

東郷さんは、令和5年4月の兵庫県議選では共産党公認で灘区選挙区から立候補しましたが落選しました。その後、灘民商から上記理由で不当解雇され、共産党からは権利制限処分を受け、その後、除籍処分を受けました。

東郷さんは、灘民商と共産党のために県議選を粉骨砕身の思いで戦ったのにこんなひどい仕打ちをした灘民商、共産党（中央委員会・県委員会・地区委員会）及び味口俊之・神戸市議（灘区・共産）を相手取って、解雇の無効やハラスメントの慰謝料などを求める民事訴訟（2件）を同年6月に神戸地方裁判所に提起し、私は東郷さんの訴訟代理人として対応しています。



灘民商・日本共産党を相手に提訴した東郷ゆう子さん（中央）、南出喜久治弁護士（右）と木原（令和5年7月・神戸市内）

5、県会議員候補として共産党に出向したが、選挙活動を怠った。にも毎日稼働していたと虚偽の報告をした。

2023年5月18日

灘民商代理人弁護士が東郷さんに送った解雇理由書

2 灘民商担当者に対する証人尋問

去る7月24日、灘民商の担当者（事務局次長）に対する証人尋問が行われました。東郷さんは、灘民商の事務局長が、国から持続化給付金を詐取するため、灘税務署長の文書收受印を偽造して確定申告書の控えをねつ造する“工作”をしていたと証言したため、事務局長が出頭して証言すべき事案ですが、代理人弁護士が“事務局長は退職した”と述べるので（真偽のほどは不明）、事務局次長が出頭しました。しかし、肝心の灘民商と日本共産党との関係を訊かれても“わからない”を連発しました。さらに、次長は、**灘民商では毎月、従業員一人に対し給与明細を2枚発行していた、次長自身も毎月2枚発行されていたと証言しました。**つまり、給与の一部を“共産党の活動費”に付け替えることによって、事業所として納付すべき給与所得に対する源泉所得税を組織的に脱税していたことが明らかになったのです。このように、灘民商が日本共産党の地下組織として非合法活動に従事している実態が露呈したのです。

3 味口俊之・神戸市議（共産）に対する本人尋問

そして、灘民商と日本共産党の関係を熟知する味口市議に対する尋問が以下の日程で開かれ、私が味口市議を尋問しますので、ぜひ傍聴にお越しく下さい！

東郷ゆう子×日本共産党・味口市議 第7回口頭弁論（本人尋問）

日時	10月30日（水）午後1時30分～	※傍聴券交付の可能性があまり
場所	神戸地方裁判所第203号法廷	す。詳しくは神戸地裁HPを
尋問を受ける当事者	東郷ゆう子、味口俊之	事前にご確認ください。



東郷さんと公開法廷で“直接対決”する味口俊之・神戸市議

ワクチン被害 救済のため、裁判と政治で全力を尽くします！

1 地元・神戸でのワクチン死国賠訴訟

新型コロナワクチン接種後の死亡・後遺症例が相次ぐことから、私は、令和5年5月以降、被害者たる原告の代理人として、国や製薬会社を相手取って薬害訴訟（国家賠償訴訟）を提起し、訴訟追行にあたってきました。

そして、去る令和6年6月3日には、2回目（ファイザー）接種翌日に急性心不全で亡くなった男性（70代）の遺族である小倉さん兄弟の代理人として、国、ファイザー等を相手取って国家賠償訴訟を神戸地裁に提起しました。記者会見の様子は、MBS テレビなどで報道されました。

2 皮膚疾患部位からスパイクタンパク検出(岡山地裁)

6月21日には、3回目（ファイザー）接種後、2年間にわたり「あせも」様の皮膚疾患が現れ続けている50代女性が、国、ファイザー等を相手取って国賠訴訟を岡山地裁に提起し、同日、岡山市内で記者会見を行いました。

会見には、協力医である佐野栄紀・高知大特任教授（西宮市鳴尾で佐野皮膚科を開業）が同席され、免疫組織染色の結果、女性の「あせも」部位の組織から、ワクチン由来のスパイクタンパク質を検出し、このタンパク質が体内で炎症を起こす原因であるとみられる旨を解説しました。

3 ワクチン接種で感染が抑えられた証拠はない

国は、今年10月から65歳以上の方に対する新型コロナワクチンの定期接種を開始しますが、これまでに何度も接種を勧めておきながら一向に感染が終息しないというのは、もはや“ワクチンが効いていない”ことの証左ではないでしょうか。むしろ、接種者の方が非接種者より感染率が高いという研究データも存在する（小島勢二・名古屋大名誉教授）ことから、国は直ちに接種を中止し、ワクチン被害の徹底調査をすべきです。

私の法律事務所には、接種後の動悸・息切れ、顔面神経麻痺、手足の震え、慢性疲労症候群といった被害に関する相談が相次ぎます。しかし、国が“因果関係は不明”とうそぶいて救済しなかったり、微々たる医療費や医療手当しか補償しない現実の前に、多くの被害者が泣き寝入りを余儀なくされています。

私は、こうした事態を事前に予見し、これを未然に防ぐため、令和3年10月の衆院選（兵庫1区）で、候補者でただ一人“ワクチン中止”を公約に掲げて無所属で戦ったのであり、これからも一貫した姿勢を堅持し、「ワクチン被害者の救済」を実現するため、裁判と政治活動の両面で全力を尽くしてまいります。

兵庫むすびの党 代表 弁護士 木原 功仁哉 40歳

【事務所】〒658-0053 神戸市東灘区住吉宮町 3-15-15
グランディア住吉駅前 4階西号室（JR住吉駅南へ徒歩3分）
電話 078-855-4014 E-mail info@kiharakuniya.com
X（旧Twitter）https://twitter.com/kiharakuniya

経歴 昭和59年3月神戸市生まれ、市立御影北小学校、滝川中・高等学校、京都大学工学部物理工学科、旧大阪市立大学法科大学院各卒業、平成27年弁護士登録（東京弁護士会）、令和3年に高齢になりつつあった母が入院したことを機に神戸に帰省を決意。同年6月独立開業、同年10月の衆院選（兵庫1区）、令和4年7月の参院選（兵庫）にそれぞれ無所属で立候補。令和5年4月の神戸市議選（東灘区）では無所属で4386票を得たものの共産党現職に166票差で次点。この落選を機に、さらに精力的に活動中！



神戸地裁への提訴後に会見する木原（左）と原告の小倉さん兄弟（令和6年6月3日・毎日新聞より引用）



接種後の「あせも」部位からワクチン由来のスパイクタンパク質が検出された女性の腕
(KBS 瀬戸内海放送 YouTube チャンネルより引用)



毎朝、地域見守り活動中！

毎月第一土曜日は事務所で交流会を行っています(11:00~13:00)。ぜひ遊びに来てください！

